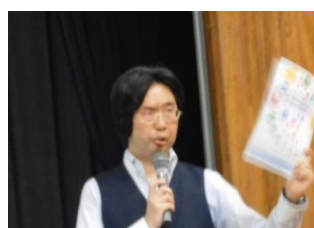




第5回かながわ教育学講座

台風が迫る中、第5回かながわ教育学講座が開催されました。テーマは「インクルーシブ教育」です。子どもたち一人ひとりのニーズに合わせ、寄り添い、できるだけ全ての児童・生徒が同じ場で共に学び、共に育つことができるよう推進されているインクルーシブ教育について理解を深めました。残念ながら今回は、台風24号の接近により、グループ活動を中止としましたが、講義を通して、インクルーシブ教育について考える貴重な機会になったと思います。

インクルーシブ教育



星槎大学 大学院
阿部 利彦 准教授

星槎大学大学院 阿部 利彦 准教授による「インクルーシブ教育と教育のユニバーサルデザイン」と題した講義がありました。人間の多様性を尊重し、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みがインクルーシブ教育であること、共に学ぶためには、個人に必要な合理的配慮が提供される必要があり、多くの子どもたちにとって分かりやすく、学びやすく配慮された教育のユニバーサルデザイン化が有効であることを学びました。

見て分かる工夫をする「視覚化」、大事なポイントを明確に「焦点化」、仲間と考えを「共有化」という授業のユニバーサルデザインの3本柱を意識して、授業をつくる重要性についての話がありました。特に「視覚化」による教材との合わせ方の工夫では、巨大な鉛筆が登場したり、あえて間違えた答えを示したりして、児童・生徒の知りたい・やってみたいとの心をくすぐり、授業に「ひきつける」具体例が紹介されました。また、心の居場所づくりも重要で、人的環境を意識して指導することで温かな信頼関係が築かれ、子どもが学ぶ喜びを感じる授業につながることに話がありました。

最後に教育のユニバーサルデザインを通して育みたい3つの「感」として、「安心感」「共感」「自己肯定感」の3つがあることを学びました。子どもたちが「安心感」をもって過ごせる学級・学校をつくり、子どもたちの思いに寄り添い「共感」しながら「自己肯定感」を育ててほしいとの阿部先生の熱い思いに、よりよく生きる子どもたちを育てる教師になりたいという思いを高めることができたことでしょうか。今後カレッジで行う模擬授業でも、いかせるポイントがたくさんあったことと思います。教育のユニバーサルデザインの視点に立って、授業づくり、学級づくりについて考えてみてください。

特別支援学校教科書展示

特別支援学校で用いられる教科書の展示がありました。教科書として使用されている図書が200冊以上並び、普段はなかなか見ることのできない教科書もありました。実際に手に取って読むこともでき、かながわティーチャーズカレッジならではの貴重な体験ができたと思います。

